

循環トレンドを伴う単位根検定による 日本の失業の履歴効果の検証

二宮 夢理^{a*} 茂木 快治^b

^a 神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程 1 年

^b 神戸大学大学院経済学研究科准教授

要旨

失業の履歴効果は、長期不況を引き起こしうる要因のひとつとして知られている。現実経済において失業の履歴効果が存在しているのかという問いは、失業率が定常過程に従っているのか非定常過程に従っているのかという検定可能な問いに言い換えられる。本稿では、三角関数で記述される循環トレンドを伴う回帰モデルに基づき、失業率の単位根仮説を検定する。循環トレンドの必要性は Perron, Shintani, and Yabu (2017) のデータ駆動型検定によって事前判定し、必要と判定された場合は Enders and Lee (2012b) の循環トレンド付き LM 検定によって単位根仮説を検定する。日本の全国および地域別の四半期失業率に対する実証分析の結果、全国および複数地域において循環トレンドは必要と判定され、多くの地域において失業の履歴効果の存在が示唆された。この分析結果は、「失われた 30 年」とも呼ばれる日本の長期不況の原因が失業の履歴効果にあったことを示唆するものである。

キーワード: 履歴効果, 失業率, 単位根検定, 循環トレンド

^a Email: 233e126e@stu.kobe-u.ac.jp

^b Email: motegi@econ.kobe-u.ac.jp